

ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第6回)

ゴルフスイングに学ぶ部下の育成法(後編)

2016.01.20

部下をどう育て、成長させるか？ また、誤った動きをしたときにどう対処をするか。成果の上がる部下の育成法を、ゴルフスイングにたとえて解説する後編です。ゴルフスイングの基本原理は、クラブヘッドの回転運動によって生じる遠心力と慣性力を十二分に発揮させ、そのパワーをしっかりと引き出すこと。前回は、こうしたスイング原理の説明と、これをビジネスに置き換えた場合の、会社組織における社長、管理職、そして一般社員の役割についてお伝えしました。後編ではそれを掘り下げ、部下に成果を上げさせる管理職の役割について考えていきましょう。

管理職は部下のサポーターであるべし

ゴルフスイングを会社組織にたとえるなら、社長はコア(重心)、腕やグリップが管理職、そしてゴルフクラブが最前線で活躍する一般社員です。

ゴルフスイングの中心、そしてスイングのパワーの源であるコア。これがブレてしまえばスイングが不安定になることは明白です。会社の中心ということからたとえば、社長はコアといえるでしょう。理念のない、方針が定まらない社長では、会社が立ち行かなくなります。ゴルフスイングと同じように、社長は決してブレてはいけません。

次に、ゴルフスイングにおいて、腕そしてグリップの役割をするのが、管理職です。そして、クラブが最前線で仕事をする一般社員です。つまり、管理職にとっては部下です。管理職は、社長が立てた理念や方針を、部下に落とし込む役割を担います。



ゴルフスイングにおける、腕やグリップの役割で大切なことが2つありました。それは「無理に力を入れない」、クラブの動きを「感じ取る」です。腕でクラブを動かそうとしたり、力を入れたりしては、クラブに生じる遠心力や慣性力を存分に発揮させられず、クラブの動きを妨げてしまう結果となります。ですから、腕は力まず、しなやかであることが大切なのです。

この考え方からすると、管理職がすべきは部下を管理することではなく、部下のサポーターとして、部下が能力を存分に発揮できる環境を整え、そして最大限の支援をしてあげることになります。部下が、伸び伸び仕事ができるよう、管理職は余計な力を加えずに見守るのです。… 続きを読む